

↳現代文の学習アドバイス

- ・現代文について取り組んでいきたいという人に向けて、学習の例、実践問題を解く際のアドバイスを紹介します。内容がたくさんありますので、何度も見返すようにしてみてください。

(はじめに)

- ・毎日文章に触れるくせをつけた方が思考力が鍛えられるので、毎日これは読む、というものが一つでもあるとよい。読書できている人は◎。同時に時事的な話題にも関心を広げられるとよいでしょう。新聞をとって**いれば、端的に読めるコラムを読んでみよう。**(朝日新聞「天声人語」読売新聞「編集手帳」京都新聞「凡語」など。)
- ・**読売新聞、京都新聞、毎日新聞のものは、ネットで「新聞コラム 一覧」と検索すれば、毎日無料で読めますよ。**
- ・**百字で要約してみるじょうぶをおすすめしますが、まずは毎日読むだけでも構いません。**今日から始めよう。

●ロタの学習編

① 『現代文読解基礎ドリル』の課題

- ・終わっていない人はまずここから。考えながら読んでいくことを意識して取り組んでおこう。
- ・各章の冒頭の説明を参考に線を引く、マーキングしながら読む(ポイントとなる表現にマーク、同義の内容は線でつなぐ、など)練習をしておこう。それを意識してもう一周やってみよう。

② 問題集の問題一題ずつ

- (・手に入りやすいおすすめ本は、河合出版の『入試現代文へのアクセス 基本編』(紺色が目印)。文章をどう読めばいいか、文章の全体像をつかむにはどうすればいいかのポイントが書かれていて、入門編としてわかりやすいと思います。続刊の発展編までやり込むと定着しやすいでしょう。
- ・さらに高難度な評論問題を演習したい人は、河合出版『入試精選問題集7 現代文 四訂版』などありますが、こちらはある程度力をつけてから取り組む方が良いと思います。

・**一度手つけたものをじっくり読み込んで、丁寧に進めていくこと。これが大事**

- ☆ その問題集用のノートを一冊用意する。
- ☆ 最初のうちは時間を意識するより文章の構造を丁寧に把握していくことに集中しよう。
- ☆ 初見はできるだけ自力で。知らない語も文章の内容から類推するようにし、印をしておいて辞書で引いて確認する。間違えた漢字は3回書いて練習。

☆ **解説をよく読み、読み違えたポイント・解答のポイントなどを自分の解答に対して添削すること。**

☆ これまでに紹介した問題集(入門向け)まとめ ☆

【古文】『古文上達 基礎編 読解と演習45』Z会

【漢文】『ステップアップノート10 漢文 句形ドリルと演習』河合出版

【現代文】『入試現代文へのアクセス 基本編』河合出版

※基礎からやりたい、という人向けです。書店でも置いてある手に入りやすいものをあげていますが、現在は残念ながら書店もなかなか開いていないかもしれません。Amazonなどでも入手可能です。購入した問題集は継続してのぞき、解説のじっか目を通そう。2週以上しててもよい。

※文法は学校で使ってきた本にじっか載っていますので、活用していただく。語彙のじっかは知らない単語を目にするたびに辞書(単語帳)を引く癖をひけるよう、一冊使いつくすまで頑張ってください。

●実践問題を解く際は…

現代文の問題に対しては、まず**正確に読み取る**必要があります。ここでは読解と解答に分けて、基本的なことをまとめました。

【読解】（最も基本的な注意点です。詳しくは『現代文読解基礎ドリル』で練習してみましょう。）

- ・先入観を持たずに、書いてあることを元に読む。評論では左の4つ(＋1)の**基本構造を意識して、筆者が主張したいことの主旨を捉えて**いこう。小説においては、**あくまで書いてあること**に読んでいき、深読みすぎないように注意。
- ・評論の具体―抽象関係については、交互に展開することが多い。具体例直後には要約表現（つまり、このように、など）が用いられやすいので注意しておく。
- ・評論の同一関係、対比関係においては、「**どう**という点について**同一**（または**相違**）」なのかに気をつけて読んでみよう。

・小説は**場面設定**、**心情**、**比喩**に注目すること。視点人物が誰か（誰の目線から語られているか）に注意して読もう。また心情については、どのように変化したか、どのような比喩で表現されているかに注意して読んでみよう。（小説では、**変化前** ↓ **変化のきっかけ** ↓ **変化後** という構成を意識して読む。また天候、時刻、季節も心情表現になり得る。）

・難解な表現や用語についても、先に読み進めることで意味を推しはかろう。また、難しい熟語は一字一字の漢字からある程度意味を想定しよう。

☆ 評論文は、説明に主に次の4つ(＋1)の関係が用いられる。

- ① 具体―抽象（例と論）関係 ∴ (Aは例えばB。BをまとめるとAといえる)
- ② 同一関係 ∴ (AはBと同義)
- ③ 対比関係 ∴ (Aと対義的・対照的なのがB)
- ④ 因果関係 ∴ (Aが原因となってBになる)
- ⑤ 比喩関係 ∴ (同一関係の一つ、微妙なニュアンスを伝えるために喩えを用いる。表現は異なっているが、内容的には同一)

【解答】・解答（答える内容の選び方、答え方）の注意点です。

- ☆ 右の4(＋1)構造の中で、A・Bのうちの片方に傍線が引いてあれば、対応する部分（一箇所とは限りません）が解答に関わることが多い。
- ☆ 空欄補充問題も右の構造を意識しているかがポイントになることが多い。
- ☆ **問いをよく読む。**「**どうしてか**」「**なぜか**」「**同じ内容を抜き出せ**」「**両者の違いは何か**」「**なんの問いに対して、聞かれてる問いと答えてる内容かに改めて注意する。**」
- ☆ 本文中で言及されていないこと、または問われていないことが解答に含まれていないか注意する。
- ☆ 選択肢の問題で判断に迷う場合は、**選択肢同士を比較して、2つの選択肢は何が違うのかに注目する。**
- ☆ 指示語の問題は、前後の文脈をよく考えて、解答を指示語の部分にそのまま代入して筋が通るか確認する。
- ☆ 記述の際は比喩表現を用いない。言い換えた部分を用いる、もしくはわかりやすく言い換える。
- ☆ 二つの事柄の違いを述べる際は、二つともに言及すること。
- ☆ 小説の心情説明では、心情語を用いるようにする（「〜という喜び」「〜という後悔」というように）

●教科書や模試を活用しよう！

これまで受けた模試の過去問は、良い練習教材になります。

- ・時間を計り、ノートに答を書く。
- ・選択肢を隠して記述にする。
- ・解答解説を熟読する。

これだけでも十分力がつきますよ。

また、問題集を購入しない場合でも、左の説明を参考に、要約に取り組むことで十分効果が得られます。

●要約のすすめ

(これまでの模試や教科書の今まで学習していない評論文を使って、百字か二百字でまとめてみよう。)

- ・「要約」とは、本文全体の内容を凝縮してまとめたもの。流れや構造を意識し、筋が通った内容になるようまとめる。
- ・表現や内容の重複を避けて、無駄のない要約を心がける。
- ・些末な具体例は要約に必要ないが、本文のテーマと結びつく重要な具体的内容や表現は要約に組み込む。
- ・本文の構成がすっきりと整っている場合は本文の順番とおりに要点をまとめていけばよいが、本文内容の構成が入り組んでいる場合は、内容の順序を組み替える。

構成や重要な部分を意識できるので、読解力をより確かなものにすることがおすすめです。知らない語を辞書で引いていくことで語彙力もつきます。

●最後に…

理解力があってもやはり実際に書く練習をしておかないと、本番で答える

力はつかない。 このことに注意しておきましょう。取り組み始めは手が進まなくても、最初を乗り越えれば

最後が楽ですよ！！ 大変な時期ですが、自分に合った方法を取り入れて、この機会に力をつけていきましょうね。